

平成26年第410回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

(平成26年3月7日 午後3時30分 再開)

●議長(小林幸雄) それでは休憩前に続き会議を開きます。

通告の10 橋崎一雄議員。

1. 新年度予算と町長公約について
2. 町長の政治姿勢と意見書に対する考えは
席番号13番、橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) 議席番号13番、橋崎一雄でございます。通告の通り今日は、2点についてお伺いしたいと思います。1点目、新年度予算と町長の公約について、それから2点目として町長の政治姿勢と意見書に対する考え、先般、町長にお渡しした意見書に対する考えでございます。

まず町長の公約ということでお伺いしてまいりたいと、そう思います。いよいよ町長最後、2期目、2期目最後の年でございますが、2期目最後の年。もう7年になるわけでございます。本当に時の経つのは早いなと思っております。私ももうそれだけ議員もやらせていただいたのかなと、改めて振り返ると早いなと思うところでございます。さて町長も4年前8年前、それぞれ公約を掲げて当選されたわけでございます。その公約の達成状況、これについてお伺いしたいと思います。色々公約を掲げておられましたけれども、振り返ってどんな状況か、まずお聞かせください。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) 橋崎議員からの最後のと言われると、何かいよいよ私もあちらの世界へ旅立って行く時期が来たのかなと思うところでございますけれども、2期目の最後の年度に当たっての予算立てを、今回は皆さんにご提示申し上げたところでございます。そこで、最後の年度にあたり、2期目のですね。未達成公約は何かと、具体的な取り組みを考えているかというご質問だと思うんですけども、この公約に掲げたものの中で未だ着手していないものという解釈でよろしいでしょうか。はい。それでよろしければ、未着手のものは私も常々胸を痛めているところでございますけれども、町農業活性化のため農業振興公社を設立しますとうたった1件でございます。率に換算しますと92.3パーセント着手および実施をさせていただいたところでございます。そこで胸を痛めているとはいえ、何も考えないというわけではまいりません。この農業振興公社を設立するという点について、どのように具体的な取り組みを考えているかですが、担当課長とも話し合っておりますし、また係長とも話し合っております。今後さらに詰めたのち、関係団体とも相談しながら、構想をまとめなるべく早く着手したいと考えておるところでございます。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) お伺いしますと、だいぶ公約は達成されたと、まあ1点だけまだというような話ですが、そんな感じはあまりしないんですけれども、まだまだ達成状況道半ば、ほとんどが道半ばではないかと、そんなふうに思うところでございますが、町長公約については、色々な公約がございました。人口増もあるであろうし、それにあたっての政策として雇用住宅の建設、それから病院改築の件もそうでございます。まだまだ町長の公約は始まったばかりでございます。道半ば、これも公約達成したとは言えない状況かと思えます。また、安心安全子育て支援についても、まだまだ道半ば、全部道半ばではないかと、そんなふうに思いますが。今一度お答えをお願いします。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) ですから今冒頭、議員にお伺いして、議員がそうだとおっしゃられたからお答えしたんですけれども、未着手のものでよろしいんですかという事で、着手している、あるいは実施したもの、そういったものを含めてですから、着手したものは、完成したとは申しておりません。おっしゃる通り信越病院の改築を過疎法が適用されている期間に行いますと、これは着手したばかりでございます。また、若者UIJターンの促進、これは雇用促進住宅のことも含めてですが、これも今現在着手したばかりのところでございます。公約に掲げたものについて、結論が出るものということはないというものもございます。例えば大自然の恵みを大切に、ブランド農産物の育成、町農業、町農業活性化、これはやっていませんね。ブランド農産物の育成、これなどはやってもやってもきりはないことだと思いますし、完全にけりが、要するに終着をほぼ見たのではないかなというのは、ワクチンの接種の助成とかおらが庵の増床とか、こういったものはほぼ終わっていると、まだまだ改善の余地は十分にありますが、新地域公共交通の整備、これもスタートはしておりますけれども、まだまだ住民の皆さんの使い勝手の良いような方向にはしていかなくてはならない。それから信越線の存続を強力に訴えますと、信越線からしなの鉄道には変わりましたが、いわゆる鉄道は守れたものというふうに解釈しております。そういった意味で議員もご理解願いたいと思います。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) すいません。未着手のということで、ちょっと聞きそびれてしまいましたが、まず冒頭で私も、公約の達成状況はということでお聞きしたと思うんですが、ちょっとその頭があったものですから。色々公約達成状況、途中経過のものもたくさんあるという事でございます。そんな中で新年度予算。これもこれまで同僚議員から色々質問ありましたけれども、再度、新年度予算に町長の公約がどのような形

で反映されておるのか、お聞かせください。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 昨日、荒井賢蔵議員に対して、同様の質問をいただきお答えをいたしました。大きなものでは4点挙げさせていただきました。まず、新年度予算に、一番目には人口増につながることを目指しての若者雇用促進住宅建設を掲げさせていただきました。次に医療福祉で挙げさせていただいているところの信越病院の改築に関して、あり方検討委員会の予算を来年度も付けさせていただいたと。さらに医療施設を充実させるために、オーダーリングシステムの導入とMRIの新規更新も予算化させていただいたということですね。それから3番目には観光活性化の一部となるスポーツ合宿の更なる充実を目指してということで、陸上競技場の全天候型残り3レーンを取り組みたいと、これは平成19年に取り組んだわけですが、当時の町に訪れている団体の責任者から、3レーンで残りは土にしていってほしいということで、私は6レーンを主張したわけですが、3レーンで終わってしまった。しかしながら、その主張した団体はすぐよその地方へ行ってしまったと、非常に忸怩（じくじ）たる思いをしたところがございます。4番目には安全安心安住できる町作りのためにということで、これは冬の道路凍結防止剤散布が、いままでは軽トラで非常に効率の悪かった散布をしていたわけですが、本格的な融雪剤散布車を導入して、町民の皆さんの足元を効率的に確保すると、今までの軽トラに対して、今度は2トン車クラスを予定するための予算を計上させていただきました。その他にも議会の皆さんからもご指摘をいただいております商工業の活性化を考えろというご提案を、真摯に受け止め、また4月より消費税増税もあるところから、プレミアム振興券を取り組ませていただきたいと予算化してございます。また、臨床心理士の人件費を含む、子育て支援の予算も計上してございますし、放課後子育て教室の授業等も予算計上してございます。以上でございます。

●議長（小林幸雄） 橋崎議員。

◆13番（橋崎一雄） 色々この新年度予算に対して、だいぶ具体的に予算を組んでいただいたということがございます。一つずつというわけにもいきませんので、主だったところをちょっと質問させていただきたいと思うのですが、人口増政策でございますが、このところ毎年130人前後の人口減があるわけでございます。現在のところ9200人ほどということですが、私が議会に入ったころには、まだ1万人を超えていたと思うのですが、もうどんどんと減少が続いておまして、少し施策が悪いんじゃないかと、長野県の中でも人口が増えておるところがあるわけですから、そんなところの施策も取り入れながら、対応策を取るべきではないかと、そんなふうに思っておりますが、合わせて雇用住宅を、今年は確保するという事でございます。あまりこ

れから予算審議があるわけでございますので、踏み込んだ質問はしませんけれども、町長のこういったところの将来に向かっての考えをお聞きしたいと、こんなふうに思っております。人口増政策として雇用住宅を建てるわけですが、今後もこういった雇用住宅、若者が住めるような住宅を、継続して作っていくのか、また今回雇用住宅でどのくらいの人数を想像しておられるのか、少しお聞かせください。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 気持ちの上では、気持ちの上とは、考えの中では、今後も作ってまいりたいという考えはもっております。しかしながら何事も常にプラン・ドウ・チェックという、これが大事でございます。やってみてダメな物をさらにあがいて墓穴を掘るがごとくやっていくのでは、町の大切な財源で、大切な税であるものを使って、無駄遣いをするのでは、町民の皆さんに申し訳ございません。やはりその辺のところはチェックして、これなら行けると、さらに増やすべきだと確信できれば、さらに増築してまいりたいというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 橋崎議員。

◆13番（橋崎一雄） 町長の公約の中に、2世帯住宅補助を、こういったものを県、国に要請してまいりたいと、そんな公約があったかと思いますが、2世帯住宅、これに対して、これも人口増、また今2世帯、子供達が、子供が住む住宅がない、そういう状況が本当に多いわけでございます。いくら家があっても2世帯となると、なかなか間取りのにも住めないような家庭も、本当に多くございます。そんな中で2世帯住宅に対する考え、これはどうですか。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 議員にお尋ねしますけれど、この公約の中ではないですね。いわゆる新聞で、私的な広報といいますか。あれでうたった覚えを持っております。そこで2世帯住宅への考えですけれども、最近若い人たちが結婚すると、親元を離れて、良くて町内、ひよっとすれば町外のほうに住まわれて、子供がある程度大きくなってきたころになって、家へ入ってこられるというようなケースもございます。それに対して、隣接する敷地内に、今議員がおっしゃったように2世帯の住宅を作って住まわれるという家庭も増えてきております。2世帯住宅、これは良い悪いとかという問題ではございませんけれども、私のような年寄りにとってみれば、近間に孫がいる、近間にいざというときに頼める息子や娘がいてくれる、これは非常にありがたいことですし、また日常不安を感じることなく暮らしていけることだと、よしんば夫婦のうちの片方が亡くなっても、そこに息子や娘夫婦がいてくれるということは、片方のおひ

とりの方が安心して住んでいることができますし、更には孫との語り合いは、気持ちを和やかにしてくれるものというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 橋崎議員。

◆13番（橋崎一雄） 2世帯住宅の補助につきましても、これから人口増の一つの解決事業として、ぜひ真剣にちょっと考えていただきたい。

次に病院改築の公約もございました。前段同僚議員の方から検討委員会のお話もございました。事務長もその答えもございましたけれども、大変私は、事務長の答弁を聞いて、ああ素晴らしい検討委員会を行っているなど、そんなふう感じたところもでございます。検討委員の皆さんの意思を一番に考えて、また検討委員のそれぞれの委員の意見も聞くような体制を採られていると、私はまったく関心したところもでございます。とかくそういった検討委員会と言いますと、それぞれの機関の代表とか、そういったメンバーになって、一部の人しか意見を言わないような検討委員会になりがちなんですけれども、ぜひご期待をさせていただきたい。

それから病院改築については、町長も過疎法が適用になるうちにということで、一生懸命やっておるわけですが、私は過疎法、もう期限があるわけもございますけれども、これはずっと続くと思いますよ。多分。おそらく。多分相当な確率で。これがなくなると小さな市町村は、やっていけませんからね。まあ安心してそれは良いと思うのですが、それはそれとして、大変過疎債を対応して財政運営をされておるわけですが、町長、一番最初の公約に不交付団体を目指すという公約もありましたよね。それはちょっと無理だろうとは、みんな思っておりますけれども、目指すところは目指していただきたいと思うのですが、この財政の健全化も、もうまったく逆で、過疎債過疎債と言って、どんどんと行っていること自体がちょっとおかしいんじゃないかと。過疎債を使うという事は、もう過疎地域になってしまっているんですよね。それから脱却するようなことを考えないと、過疎債を使えるうち使えるうちと言って、言っていてどんどんどんどん過疎になっていってしまうような気がするんですけれども、これ財政力指数も今0.372。平成20年度は0.455ぐらいだったと思うんですが、こういうふうに過疎から脱却して、自らの元気になるような方向に持って行くべきが、それが本当の信念、町長のあれに基づいてやっていただきたいと思うのですが、どうも過疎債過疎債と言って、過疎を喜んでいるような感じがするんですが、その点どうですか。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 世の中には色々な、うがった見方をする方もいらっしゃるわけで、そのような見方をされるというのは、非常にいかがかなと思います。しかしながらちょっとこれから課長に答えてもらいますけれども、町の実質公債比率あるいは赤字指標とか、4指標があるわけなんですけれども、そういった面では、私は少なくともこの7

年あるいは6年では、非常に変わってきていると。間違いなく、確かに人口は少なくなっはいますけれども、町の財政状況は、私が町長になった時よりは、はるかに良くなってきたものというふうに思っております。別に過疎を喜んでるわけでもございませんし、何か橋崎議員は過疎と書いた尻上げを上げているような、そういう気もしないわけではないですけれども、決して私はそのようなことを思っておりません。ですからこそ、企業誘致にも取り組んで来たつもりでございますし、これも何もしなかったら企業誘致に繋がらなかつたろうという思いもございませす。そういった意味では取り組んできていることに、私は今のところ間違いは、それは100パーセント、ベストできているかと言われると、間違いなくベターの上のほうにはいるだろうとあるいはベストの下のほうにいるだろうという思いでおります。では、課長のほうから実際の数字について答えてもらいます。

●議長（小林幸雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木隆盛） それでは指標について私のほうからお答えをします。まず、実質赤字比率でございますが、これについては平成20年それから平成24年までございませす。それで実質公債費率でございますが、これについては平成20年度が18、平成24年度が11.3となつてございませす。それから将来負担比率につきましては、平成20年度が51.3、それから平成24年度が41.4ということで、実質公債費率については18から11.3ということで改善をされております。財政力指数につきましては、先ほど議員さんから説明がございませすが、平成20年度が0.455、そして平成24年度が0.372ということで下がつておりますことは事実でございます。以上です。

●議長（小林幸雄） 橋崎議員。

◆13番（橋崎一雄） 実質公債費率とかね、そういう4指標は資料もいただいておりますから、私も認識しております。しかし、今言つたように財政力指数が著しく低下したり、人口減が進んだ結果、過疎地域ということになつたわけですから、これは事実ですからね。町長の任期の途中でなつたんですから、それは認識していただかないと思ひます。

それから安心安全というような中で、子育て支援、こんな公約もございませす。児童クラブの充実また働く女性の支援ということでございますが、今回の補正、補正じゃない当初予算については、児童クラブの充実と言ひませすか、予算は前年度より後退しているんですね。そんな中で児童クラブも前から一向に進展していないような感じがします。もっと手厚く支援を要望する同僚議員もいますし、私もその一人でございますけれども、こういつたところの子育て支援。どのような今年度予算反映されたのかお聞かせください。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 子育て支援については、児童クラブ、放課後児童クラブと三つの事業といいますか、ございます。そういった意味では、やはりどこが主になるのかということが定まらない段階ではありますけれども、なるべく指導員も集まっていたきたいということでの取り組みをしてきました。しかしながら、なかなか指導員をやっていただく方のほうが、手を挙げていただきにくいということも現実にはございます。ですが、これからも子供達のために、さらに追加できるものがあれば追加していくことは補正でも対応してまいりたいというふうには考えております。

●議長（小林幸雄） 橋崎議員。

◆13番（橋崎一雄） それでは、続いて少し新年度予算についてお伺いしたいと、そんなふうに思いますが、6月議会でも少し指摘したところでございますが、防犯灯のLED化設置事業、これにつきましては今回新たに補助を増やしていただいて、去年は1万円の新規設置に、1万円の補助を出して、今年度は5000円もプラスの1万5000円ということで補助、計上されておるところでございますが、まあ私は全部町でやるべきじゃないかと指摘したところでございます。やはりこういった電気料の負担とか、小さな組、集落にとっては大きな負担となっているところでございます。これについても、ぜひそういった町で全部やっていくような方向付け、それはそのお考えはないのか、お聞かせください。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 小さな集落にとっては大きな負担とおっしゃられるわけですが、大きな集落にはそれだけ多くの防犯灯がございまして、小さな集落はそれなりに本数も少ないと思っております。そうしてみますとやっぱり率からして換算すれば、そんなには変わりはない負担ではないかなというふうに思っているところでございます。しかしながら、議員からは全て町でというお話ですが、これはずっと以前からそういう決め事でやってきておりますし、そういう中で、すでに集落で全てLED化にして、リースを掛けて組んでいるというところもございまして、そういう前向きなところもあるということも考えますと、一概に先にやったあんたがたは大変残念でしたねというようなことは言えるものではございません。やはり若干ではございますけれども、補助を増やす中で、各集落の中でやはり自助努力でやってもらうところは自助努力でお願いしていかなければならないというふうに思っております。なお、LED化にすることによって、電力料金は、その今申し上げた集落では、非常に少なくなって5年リースを組んだんですが、悠々やっていると、そのくらい電気料が下がったということも伺っております。替えれば替えたなりのメリットも出てくるだろうと思っております。

ところでございます。

●議長（小林幸雄） 橋崎議員。

◆13番（橋崎一雄） やはりLED化にしていく方向で、ぜひ行政も一緒になって取り組んでいただきたいと思います。また予算委員会のほうでしっかり審議していただきたいと、そんなふうに思いますが、また、プレミアム商品券につきましても、6月に少しお話した経過がございますが、商工会との懇談会の中でも、町長に約束していただいて、今回本当に予算化されたことには、評価するところでございます。

それからもう一つ予算の中で、野尻湖支館改築に合わせて、エレベーター設置があるんですが、古間の地域交流センター、交流施設につきましても、エレベーター付きで新しく改修されたわけでございます。それから野尻湖支館にもエレベーターが付いた。柏原、総合会館には、支館にはこれまでもあったと、あと一つね。あと一つ将来的にお考えありますか。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） どこへ飛んでいくかと思ったら、あと一つでございますか、あそこの建物、これからもずっと続いて使用するとなると、やはりあの階段を切なそうに上り下りをしていらっしゃる、じきに私もそうなるかもしれないけれども、そういう年配の方、お見受けするに必要なにはなるだろうなという感じはいたします。

●議長（小林幸雄） 橋崎議員。

◆13番（橋崎一雄） 富士里地区の公民館活動も、大変盛んでございます。住民の皆さんの富士里支館に寄せる期待度も大変高いものがございます。ぜひそういったところもお考えいただきたいと思います。

それから財政の健全化というところで、この当年度予算案の概要の中にも、大変財政的に厳しいというようなお話もしっかり書いてありますね。ちょっと読ませていただきますけれども、自主財源の確保に苦慮していると、法人町民税については、経済対策の効果が反映され、税収となって表れるのが遅いため、減少の見込みとしたと。固定資産税については、前年とほぼ同額を見込んであるところであるがということでございますが、それから年々増加している社会保障関係費、および政策的経費等にかかる消費税法改正による、歳出増加や公共施設の改修事業および維持管理費等により、財源不足が生じ基金を取り崩さざるを得ない厳しい財政状況となっていると。そしてまた、基金の取り崩しについても、大変多くの基金から繰り入れて今回予算立てをしております。こういったところも、財政の健全化を考えていかなければいけないと思うわけですが、町長、企業理念をもって行政運営をしていくんだというような

公約もございました。こういった財政が厳しいときに、この借金が一般会計でござい
ますけれども、年々ここ数年2億近い金額が、町債が、借金が増えている状況なんで
すが、ここらへんの考えをちょっとお聞かせください。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) 本来そのまま検証をしないで進めていけば、もっと増えたであろ
うという部分もございます。特に大きなものに至っては、下水道工事、これは大変一
部の人達には不本意な、議員のところも含めて、不本意な結果かもしれませんが、な
かなか接続率が上がらない。また引っ張って来てくれても家は接続するかどうかわか
らない。あるいは家はしないという地区においては、削らせていただいたと。そうい
う事業の見直し等も進める中であっても、でも将来のために投資としてやらなければ
ならないもの、これは企業もそうです。売り上げが少ないから設備投資は一切しない
ということで、じっと布団をかぶったままでいけば、どんどん企業はじり貧に追い込
まれます。そういう時に思い切って、先端の設備投資をすることによって相手先から、
「お宅ではそのレベルまでできるのであれば、こういうものやってみてくれないか」
と言われる、そういうことに繋がっていくわけですから、必要なことはやはりやらざ
るを得ない。しかしなおかつ他のものについては、常に見直しをしながらチェックし
ていくと、そういう気持ちでやっていくことが必要であろうと。行政とはそういうも
のだらうと思っております。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) まさに町長の言うとおりでございます。今下水道の話がありました
けれども、これについても致し方ない部分もあろうかと思えます。しかし今、下水道
の話をちょっとさせていただきますけれども、原、落合、仁の倉地区、下水道がカッ
トされる、下水道事業が削られてしまったわけでございます。未だに町長の今よう
な答弁を、待っているんですよ。本当にいますよ。そういった、本当にこういう状況
だからぜひ協力してくれというような町長のしっかりした態度が住民に伝わってこな
いから、未だに「自分たちのところは切られたんだ」と、そんなような考えをもっ
ている方がいっぱいいますよ。現実に、町の、町じゃない、組の関係でも下水道推進委
員、これもまだ存続していますよ。まだあるんです。そういう状況です。未だに町長
のそういうしっかりした考え、答えを聞いていない、私も再三、下水道に関しては、
説明をしてくれるように頼んだ経過がございますよ。ぜひまたそういったところも全
般にわたってでありますけれども、町長の詳しい丁寧な説明、これをして財政の健全
化に向けて取り組んでいただきたい。これはしっかり要望しておきますけれども。

ちょっと時間の関係もありますので、次の質問に入らせていただきたいと思います
のですが、先般、町長に意見書を議会から、お渡しさせていただいたところでござい
ます。

再度議会だよりでも町民の皆さんにお知らせしたところでございますけれども、6項目をちょっと読ませていただきたいと思いますのですが、一つとして、議案については、拙速に進めることなく十分な時間を取り、関係課、係職員が相互に連携し精査の上、完成された議案として上程すること。二つ目として、上程する議案については、十分に熟知された上、詳細で丁寧な説明に努めること。三つ目として、既存の条例が現状に合わない場合には、積極的に見直し等を図ること。四つ目として、特別な事案については、事の大小にかかわらず議員との情報の共有に努めること。五つ目として、通年議会が約10か月経過するなかで、突発的でなく可能な限り計画的な会議の開会に配慮すること。六つ目として、町長と職員との意思疎通をより緊密にし、情報の共有と共通の目的意識を持つよう努めること。これを議会として町長に意見書を上げさせていただいたわけですが、これに対しての町長のお考えをお聞かせください。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) ご指摘いただいた意見書は、これだと思っておりますけれども、この意見書の中の指摘事項につきましては、真摯に受け止めさせていただいており、今後も十分注意しながら取り組ませていただくつもりでございます。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) 真摯に受け止めさせていただきたいというような答弁ですが、本当に真摯に受け止めていただいたのかわからないんですが、まだまだ町長と職員間の連携化が一致していないんじゃないかと思えます。これは12月2日の日付で出ているわけですが、この意見書をお渡しした時点で、この職員との対応策、どのような対応策をとっていただいたのか、お聞かせください。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) 別に対応策って、何をお求めになってらっしゃるかわかりませんが、要は職員に、私の意見が考えが伝わるようにすることであろうと、それを指摘されたんであるというふうに解釈しましたし、同時にまた教育長が前に答えましたように、私の考えを述べたことに対して、質問も決して聞かないとか、耳を持たないとかいうことなく、受け止めて来たつもりでございます。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) この意見書につきましては、もっと真剣に考えていただきたい。こんな意見書を町側へ提出するというようなことは、余程なことではないと出せないとい

ろで、ほかの議会ではないのではないかなと思います。これまでの町長、町政の議案それから色々な提案、議案の説明、これに関して非常に不備な点が多々あったものですから、今回こうやって議会、議会の意見書として出したわけです。もう真剣に受け止めていただいて、これをもう課長、係長合わせて真剣にこれに取り組んで、対応策、どうしてこうなったのか、これからどうすべきか。ね。これをすぐ考えていただかなければいけないんじゃないかと。考えていただきたかったなと思っております。職員の中には、議会だよりで、この間出したものを見てやっとなんか出ているんだと、こんなふうに認識された方もおるんですが、そういう考えはございませんでしたか。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) 「やっとなんか出ているんだ」などという認識はありませんでした。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) 今職員の、一部職員の皆さんからそういう事でございます。だから町長がですね、町長、総務課長、副町長ですか。職員を、こういう意見が出ているんだから何とかしようと、一緒に考えようというような話は、まったくされていなかったという事であろうかと思えます。そんな中で、今回も正誤表、議案の入れ替え差し替えが少しあったりしたわけでございます。そんな中で、もっと大事な点が、昨日の議案についての対応、非常に残念な結果でございます。この意見書はこれまでの町長と行政の対応を見て、議会として最後通告のような形で出した意見書ですよ。これを真摯に受け止めていただかないと、昨日の議案、減免の議案。不正確な答弁、誤った答弁をして、その答弁に基づいて我々が採決したわけでございます。ね。誤った答弁をされた中で、私たちが議決して表決したわけでございます。議会の議決というのはもう取り返しがつかないんですよ。一度決めたものを。どうですか。これだけ意見書を出していながら、まだ昨日のような事態が発生してしまう。町長、昨日の減免の関係、わかりましたか。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) はい。条文を見て、理解はしました。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) 議員の皆さんにもあれなんです、条例に載っている部分。あれに

については、条例に載っておれば議決の必要はなかったわけです。載っている部分に関しては、その外れた部分であるからして議決が必要だったわけです。そういうことで良いのですよね。総務課長。

●議長(小林幸雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木隆盛) はい。その通りでございます。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) ですから、ちょっとその議案について、町長、職員間でこの議案はこういうものだというような話をすれば、即答できるんですよ。全然していないから、そういう間違いが起こるわけで、これだけ意見書を言っても、全然なおらない。もう一つそういったことで議案を議決してしまったんですが、その点について町長。どのようにお考えですか。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) お認めいただいたという事に対しては感謝申し上げます。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) 正確な答弁をいただいても、表決の賛否については変わらなかったと思いますけれども、それだけ議案提出にあたって、真剣に考えてないということですよ。まだ、分かっておられないようですから、どうしようもないんですけども、まあひとつこの件に関しては、相当な対処をしていただきたい。お願いします。何か、謝るでもなくただただお認めいただいたということですが。どうなんですか、最後通告というような話もさせていただいたわけですが。どうなんですか、昨日の議案に対する対処の考えは。

●議長(小林幸雄) 松木町長。

■町長(松木重博) 感謝申し上げますと言ったところでございます。昨日のことにつきましても、真摯に受け止め、真摯というのは真面目に正面から受け止めるということに尽きるわけでございます。決して今日初めてここに持って来て、開いたわけでもございません。いただいた時にすぐに目を通させていただきましたし、これは最後通告だと、次は不信任だとおっしゃられるのであれば、まあそれはそれで受けざるを得ないのかどうなのか、私としては決して議会をおろそかにしているつもりはございません

し、平生議会の皆さんと敵対するつもりもありませんし、真面目に皆さんからいただいた意見については、毎回そうですけれども、議会が終わっても、私が話した事、いただいた質問のことやらもう一度目を通したりもしているところでございます。これからは粛々と進めてまいります。

●議長(小林幸雄) 橋崎議員。

◆13番(橋崎一雄) 何とか、町長に考えていただきたい思いから、議会の総意として意見書を提出したわけでございます。残念ながらあの結果でございますけれども、これまでも私も、まあ賛否、賛成討論する中で、色々な意見を込めながら賛成もさせていただいたところでございます。これから、そんな意見を言うくらいなら否決しろよというような感じでございますので、またそういうふうな対応も取らせていただくかもしれない。また町長も、意見書をしっかり真剣に考えていただきますようお願いしまして、一般質問を終わります。

●議長(小林幸雄) 関連質問のある方。なしと認めます。以上で橋崎一雄議員の一般質問を終わります。

皆さんにここで申し上げたいと思いますが、昨日一般質問終了後に、町長より発言中の削除の申し出がございました。この件に関しまして、本会議において許可が必要でございましたが、私の不手際で欠かしてしまいました。よって改めまして、ここでお諮り申し上げます。昨日の町長の申し出に対し許可することにご異議ございませんか。(異議なしの声あり) 異議なしと認めます。よって町長の申し出は許可することに決しました。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。お諮りいたします。委員会審査のため、明日3月8日から3月19日までの12日間を休会といたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

ご異議なしと認めます。よって明日3月8日から3月19日までの12日間を休会とすることに決定いたしました。

念のため申し上げます。3月19日水曜日でございますが、全員協議会は午後1時半から、また翌日3月20日木曜日の本会議は午前10時から、それぞれ開会となりますので、時間までにご出席ください。それでは本日はこれで散会といたします。ご苦勞様でございました。

(午後4時26分)